

作成 2022年3月28日
摂津市議会議員 松本暁彦

令和4年第1回定例会代表質問 ～本会議2日目 2022年3月7日～
議事録（抜粋）

（自民党・市民の会の松本議員が会派を代表して質問。内容は会派で検討したものである。）

2-6 持続可能な地域公共交通について

質問の背景：持続可能な地域公共交通については、多くの市民の方から要望がある市内の公共交通の利便性向上について、かねてから議論されていた。ただ、議論が進まなかった状況ではあるが、ようやく市は令和4年度にしっかりとした計画を立てていくと予算処置を行った。

質疑概要：市内の地域公共交通の現状について確認するとともに、どういう方向性で、今後の持続可能な地域公共交通について計画するのかなどについて議論を行った。

○松本議員

2-6 持続可能な地域公共交通について、現在、多くの地域でバスをはじめとする公共交通サービスの需要低下や経営悪化などにより、公共交通の維持・確保が厳しくなっています。

本市も昨年、市内の路線バスが減便され、市民生活に大きな影響を与えており、地域の移動手段の確保・充実を図る取り組みが、一層重要になっています。

そこで持続可能な地域公共交通の実現に向け、どうお考えかお聞かせ下さい。

（略※）

○森山一正市長

持続可能な地域公共交通についての質問であります。地域公共交通につきましても、人口減少や高齢化が急激に進む中、また、バス運転手不足の深刻化など、公共交通の確保・維持は容易ではなくなっている事は認識しております。加えて現在、新型コロナウイルス感染症対策による人流抑制が乗降客の減少等、さらに追い打ちをかけている状況であります。

本市においても同様にその影響を受けており、これまで市内を走る近鉄バスや阪急バスにおいて一部の路線において減便等が発生しております。

需要と供給のバランスから負のスパイラルに陥らないためにも、効率よくまた利用しやすい環境を作ることが必要であります。

[想いを言葉に、言葉を形に、形から実践へ。]

そのためには、現状把握し、将来を見据えた課題も認識した上で、地域のニーズにあった、自らデザインする地域交通を構築する必要があります。持続可能な地域公共交通を目指し、今後もしっかりと取り組んで参ります。

(略※)

○松本議員

2－6 持続可能な地域公共交通について、自らデザインする地域交通を目指す意思を理解しました。

これからは、地域公共交通のあるべき姿を自治体が明確に示すと共に、自治体とバス事業者が緊密に連携して、地域の足を守っていく取り組みが重要になります。

令和4年度は、有識者の指導・助言を踏まえ、将来の在り方を検討すると伺っていますが、公共交通の維持・確保に向けた今後の取り組みについてお聞かせ下さい。

(略※)

○建設部長

続きまして公共交通の維持確保に向けた今後の取り組みについてのご質問にお答えいたします。

市の公共交通につきましても、効率的に機能する交通ネットワークの実現に向け、摂津市行政経営戦略等に基づき、まちづくりと一体となって進めていく必要があります。

令和4年度は人口減少や高齢化といった本市の課題と将来像を見据えながら、地域特性に即した公共交通の目指すべき姿や今後の交通計画の基本的な方針、公共交通としての市の役割やサービスレベルの設定を行い、今後の市の基本となる交通計画の考え方を整理して参ります。

本市にふさわしい交通サービスのあり方を検討し、公共交通を目指すべき姿を明らかにし、鉄道、バス、自動車、自転車、歩行者等がバランスよく組み合わせられた、持続可能な摂津市の地域公共交通計画の立案に取り組んで参ります。

(略※)

○松本議員

2－6 持続可能な地域公共交通について、公共交通の維持・確保に向けた今後の取り組みについて理解しました。

市民の足を守り、地域の暮らしを支えるために、将来にわたって持続可能な公共交通網をどのように構築していくのか、しっかりと考えなければなりません。

それには、地域の実情に合わせ交通手段を見直し、効率的かつ高い利便性を確保して、利用者を増やし、地域で支え合うことで持続する、そのような形が求められるのではないのでしょうか。

[想いを言葉に、言葉を形に、形から実践へ。]

まちづくりの観点からは、充実した公共交通網を活かしながら、駅の利便性を高め、駅を中心としたまちの活性化に取り組んでいくことも大変重要です。

是非、地域住民やバス事業者と連携しながら、誰もが利用し易く持続可能な公共交通ネットワークの構築を目指すよう要望致します。

(音声データ等より作成)

※当該質問に関係のない他の質問項目の部分は省略しています。

<代表質問 21 項目>